

# 令和6年8月台風第10号洪水の概要

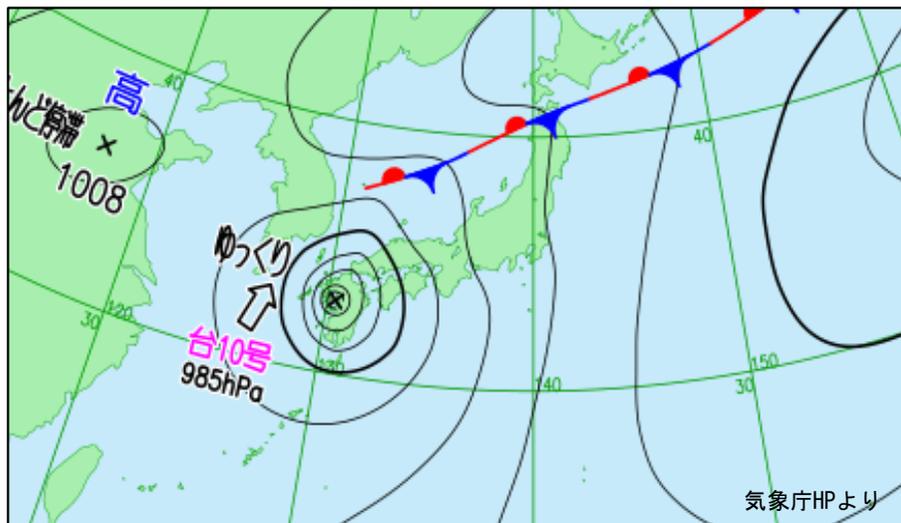
令和6年8月  
那賀川河川事務所

※本資料における数値は速報値に基づくものがあるため、後日変更になる場合があります。

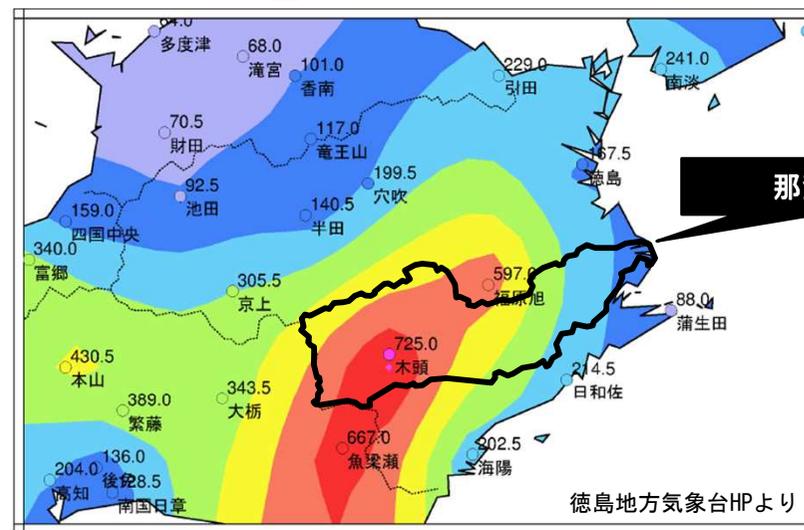
# (1) 気象の概要について

- 台風第10号による影響で、徳島県内では大雨となり、8月26日12時から31日12時までの総降水量は、木頭(那賀町木頭和無田)で725.0mm、福原旭(上勝町福原旭)で597.0mm、那賀川の古庄上流域平均雨量で約544mmを観測。また、8月29日18時30分までの1時間に上板町付近で約110mm、18時50分までの1時間に鳴門市付近で約120mmを観測し、記録的短時間大雨情報が発表された。
- 那賀川の古庄水位観測所のピーク水位は、29日22時00分に4.70mを観測。
- 水防団待機水位を超過したものの氾濫注意水位は超えず、那賀川において外水による被害は確認されていない。

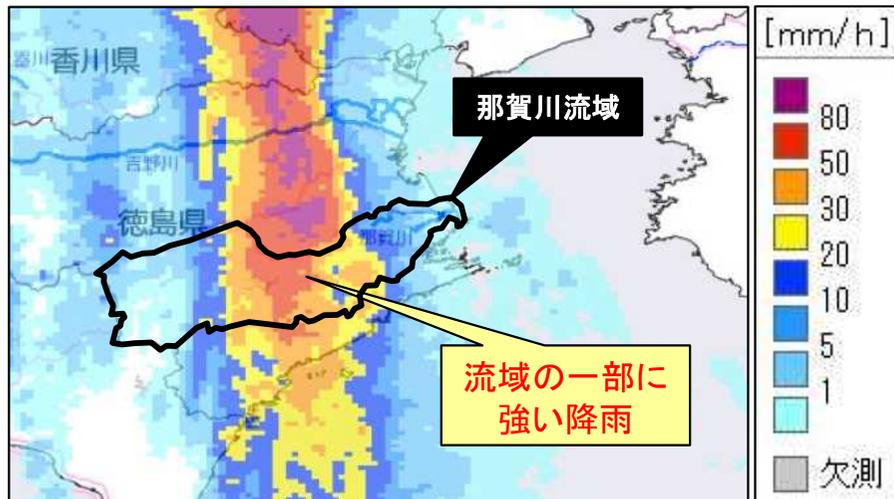
■ 天気図(8月29日18:00時点)



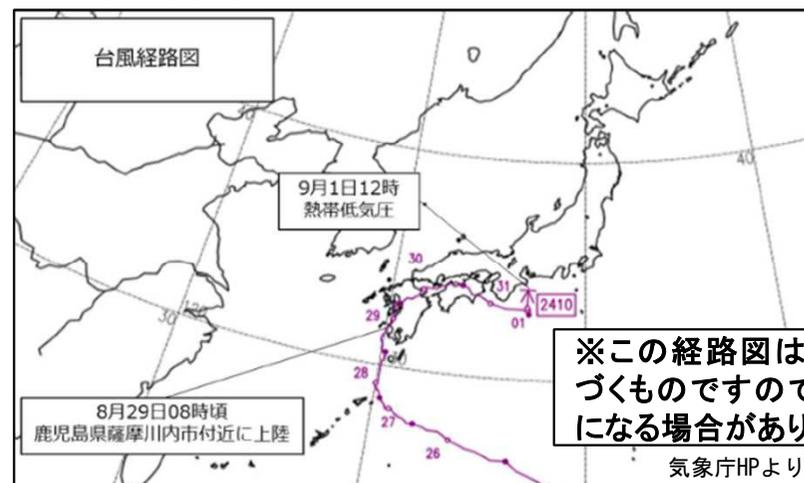
■ アメダス期間降水量(8月26日12時~31日12時)



■ 雨量レーダ画像(8月29日18:00)



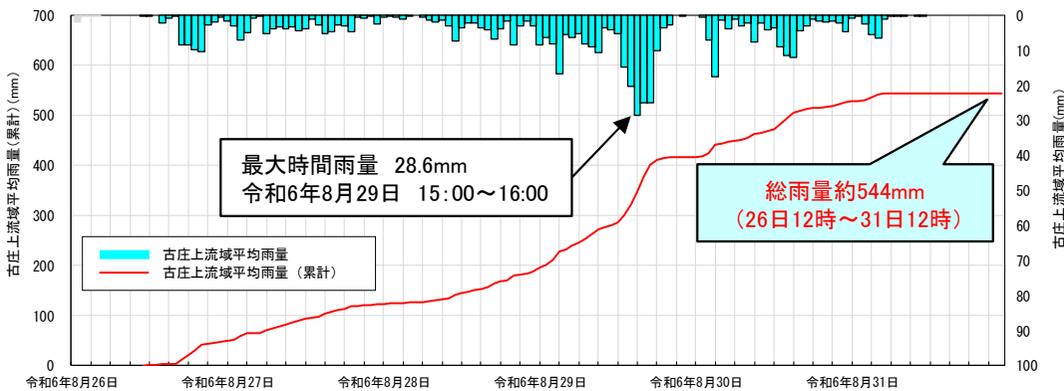
■ 台風第10号経路図



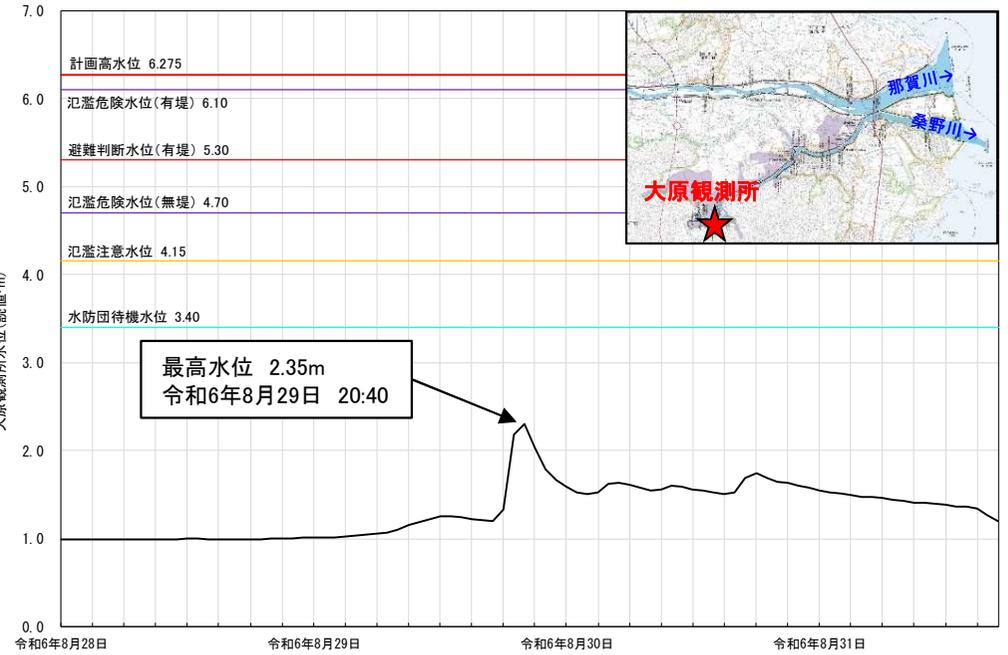
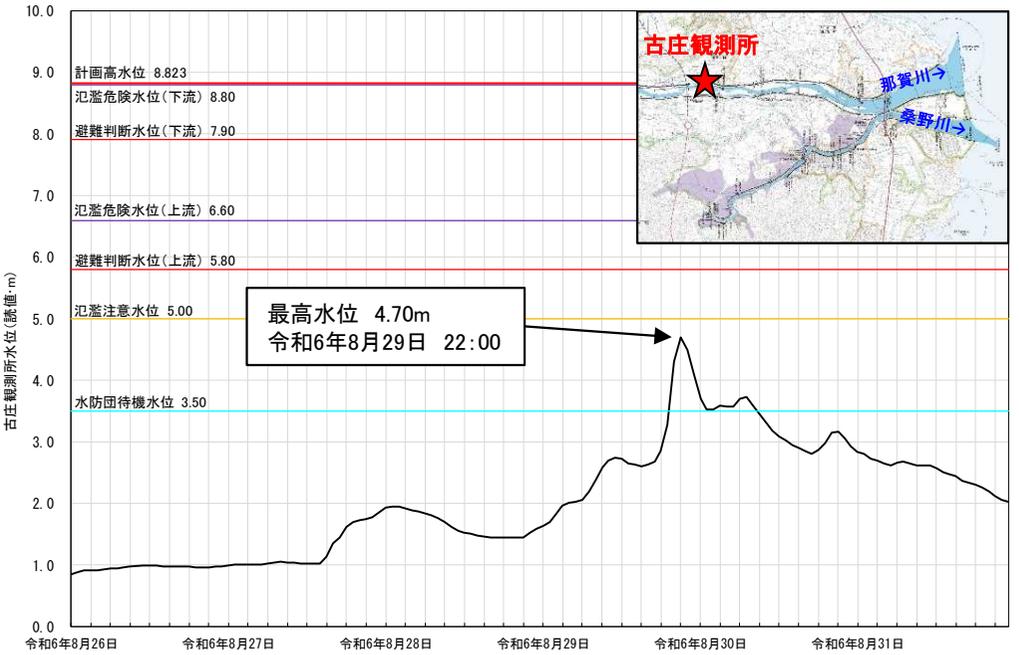
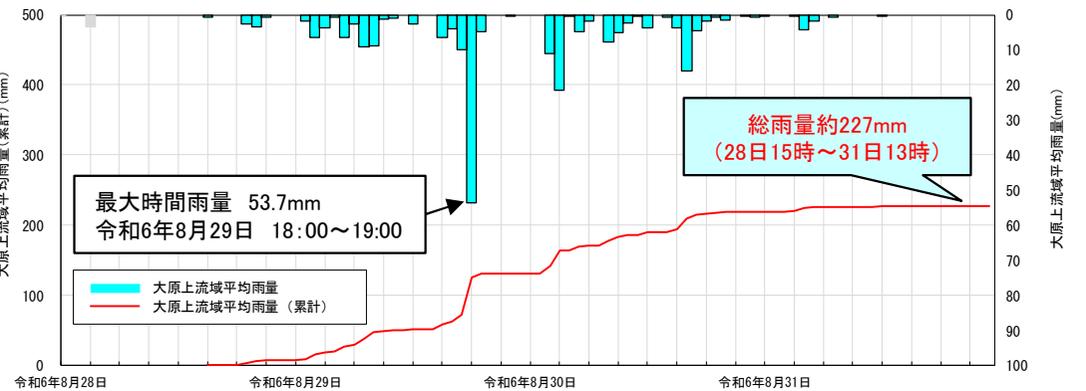
# (1) 気象の概要について

- 那賀川の河川水位は、古庄水位観測所において29日22時00分に4.70mを観測、水防団待機水位の3.50mを超過したものの、氾濫注意水位5.00mには至らなかった。
- 桑野川の河川水位は、大原水位観測所において29日20時40分に2.35mを観測、水防団待機水位3.40mには至らなかった。

那賀川:古庄基準観測所



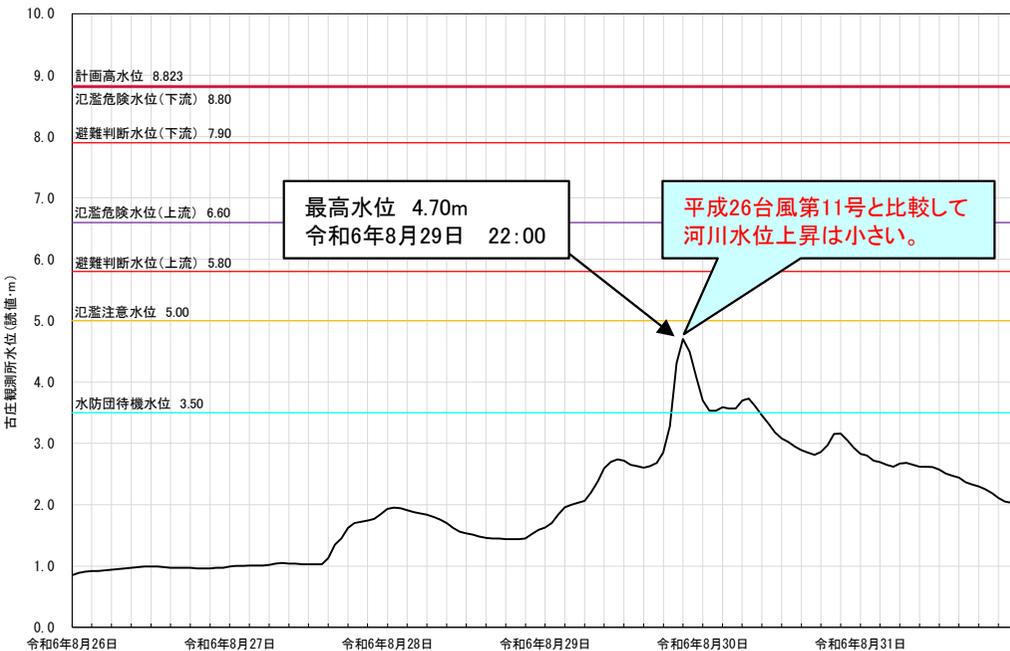
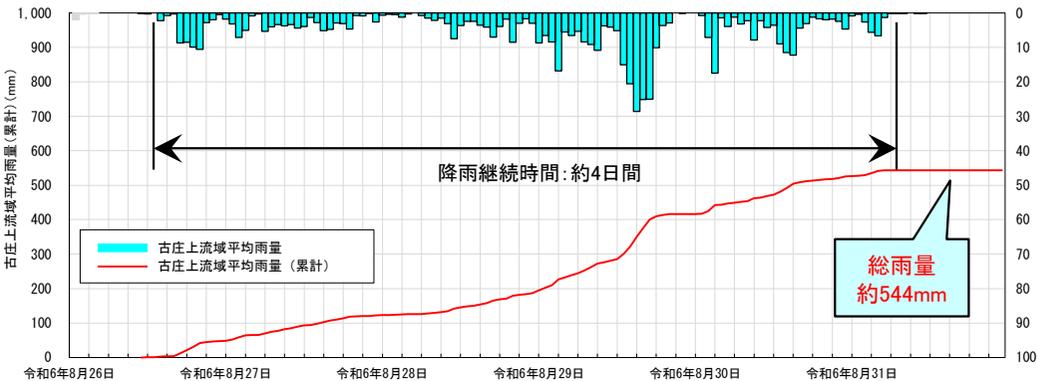
桑野川:大原基準観測所



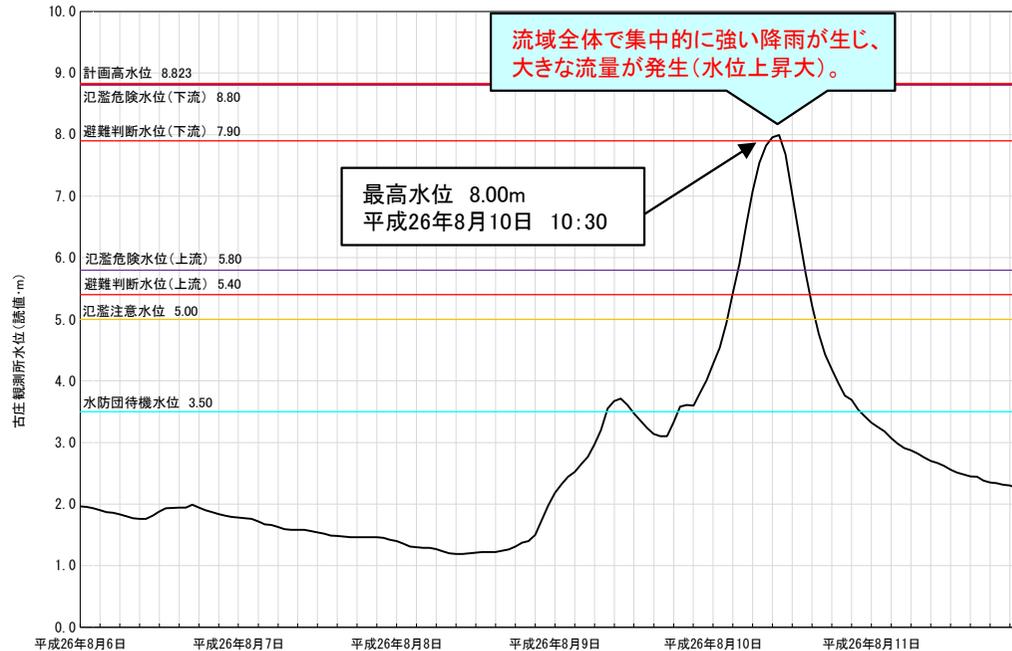
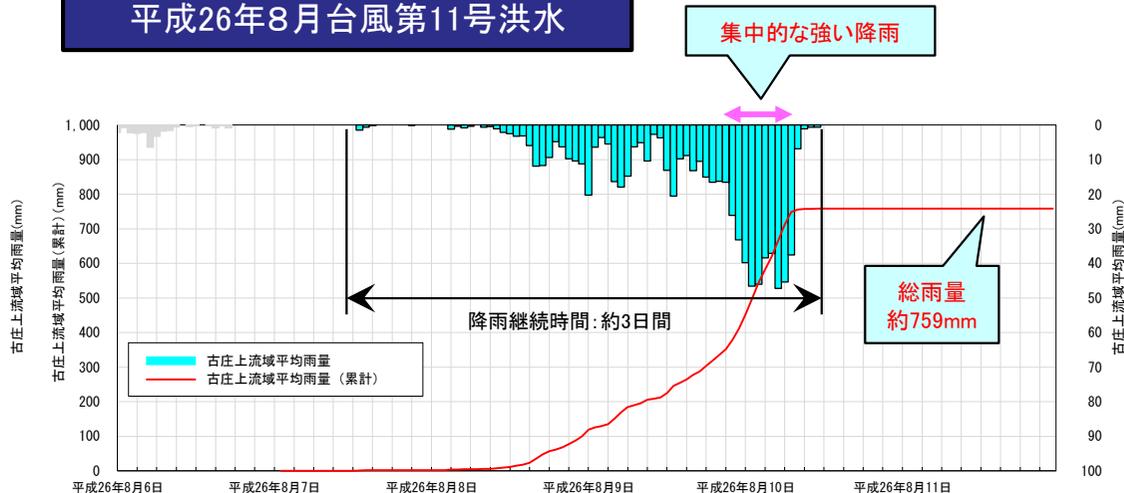
# (1) 気象の概要について

● 令和6年台風第10号の降雨継続時間は、平成26年台風第11号より長かったが、流域全体で集中的な強い降雨ではなかったこともあり、大きな流量が発生することも無く、河川水位の上昇は小さかった。

今回(台風第10号洪水)



平成26年8月台風第11号洪水



# (2) 出水対応(排水機場 稼働状況)

- 8月29日より、台風10号による出水に伴い那賀川の水位が上昇。
- 那賀川河川事務所では、那賀川での内水氾濫による浸水被害を防ぐため、水門・樋門の操作を確実に実施するとともに、排水機場の稼働により、約391千m<sup>3</sup>(25mプール約978杯分注1))の排水作業を行い、浸水被害の軽減を図った。

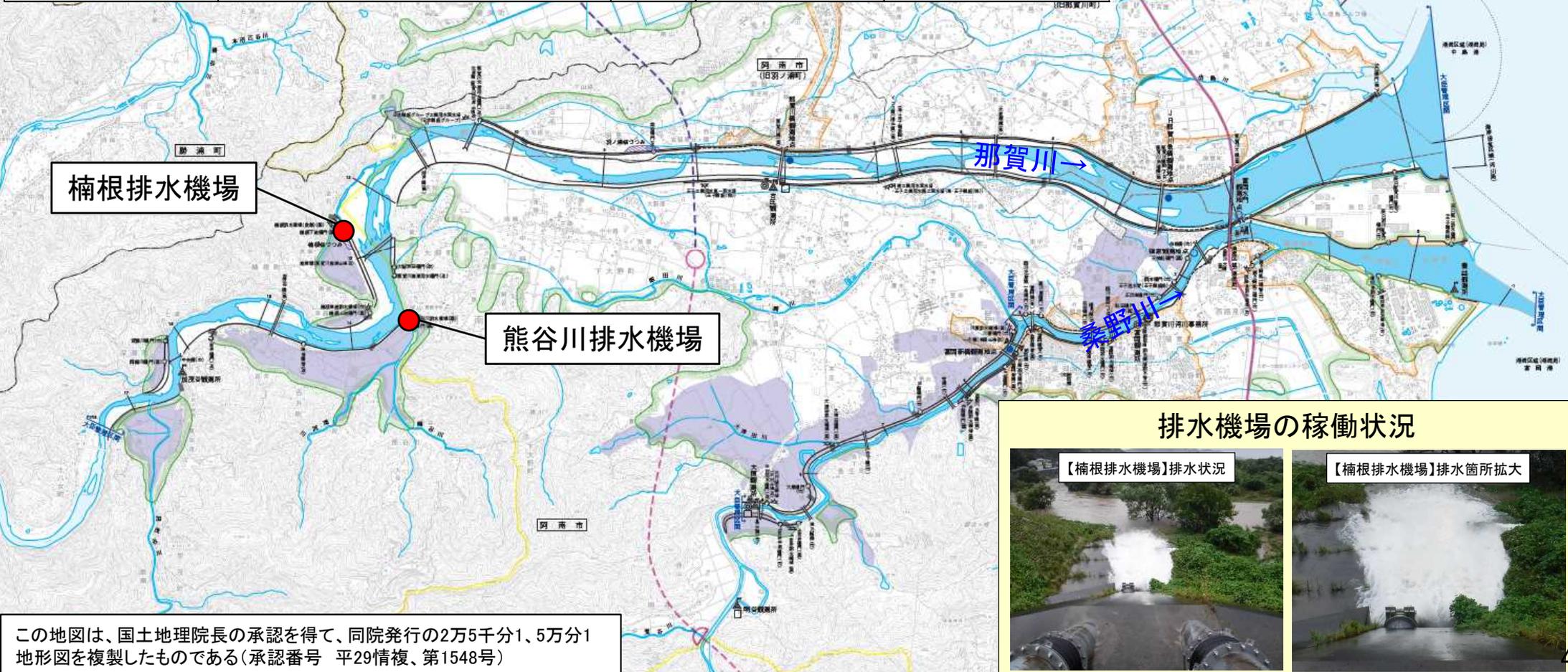
## 排水機場の稼働状況

※本資料における数値は現時点での速報値であり、今後修正される可能性があります。  
 ※桑野川においては河川水位の上昇が小さかったため樋門・排水機場の運転は実施していません。

注1)25mプールは「長さ25m、幅16m、深さ1m」として換算

| 排水機場名             | 位置                            | ポンプ規模                | 稼働時間                            | 備考                         |
|-------------------|-------------------------------|----------------------|---------------------------------|----------------------------|
| クスネ<br>楠根排水機場     | クスネ<br>那賀川左岸(楠根下流地区) 12.5km付近 | 2.0m <sup>3</sup> /s | 8月29日 19:29<br>~<br>8月30日 12:06 | 約61,000m <sup>3</sup> を排水  |
| クマタニガワ<br>熊谷川排水機場 | ヨシイ<br>那賀川右岸(吉井地区) 13.6km付近   | 5.0m <sup>3</sup> /s | 8月29日 19:18<br>~<br>8月30日 22:10 | 約330,000m <sup>3</sup> を排水 |

凡例  
 : 排水機場



## 排水機場の稼働状況



この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分1、5万分1地形図を複製したものである(承認番号 平29情複、第1548号)

# (3) 出水対応(排水ポンプ車 稼働状況)

- 那賀川河川事務所では、那賀川・桑野川での内水氾濫による浸水被害を防ぐため、排水ポンプ車の事前配備または排水ポンプ車による排水作業を行い、浸水被害の軽減を図った。
- 那賀川河川事務所が所有する排水ポンプ装置を徳島県へ貸与し、自治体の支援を行った。

## 排水ポンプ車の配備・稼働状況

※本資料における数値は現時点での速報値であり、今後修正される可能性があります。

| 排水ポンプ車 (装置)       | 位置                               | ポンプ規模                | 稼働時間            |
|-------------------|----------------------------------|----------------------|-----------------|
| 排水ポンプ車 (R02-4895) | ハラガサキ<br>派川那賀川右岸(原ヶ崎地区) 1.7km付近  | 1.0m <sup>3</sup> /s | 8月30日 5:40~6:15 |
| 排水ポンプ車 (11-4891)  | フカセ<br>那賀川左岸(深瀬地区岡崎川樋門) 16.3km付近 | 2.5m <sup>3</sup> /s | 事前配備のみ          |
| 排水ポンプ装置           | カモ<br>加茂谷川右岸(加茂地区加茂谷右岸樋門)        | 0.5m <sup>3</sup> /s | 事前配備のみ          |

凡例

● : 排水ポンプ車(装置)



排水ポンプ車  
(11-4891)

排水ポンプ装置(徳島県へ貸与)

排水ポンプ車  
(R02-4895)

## 排水ポンプ車の稼働状況

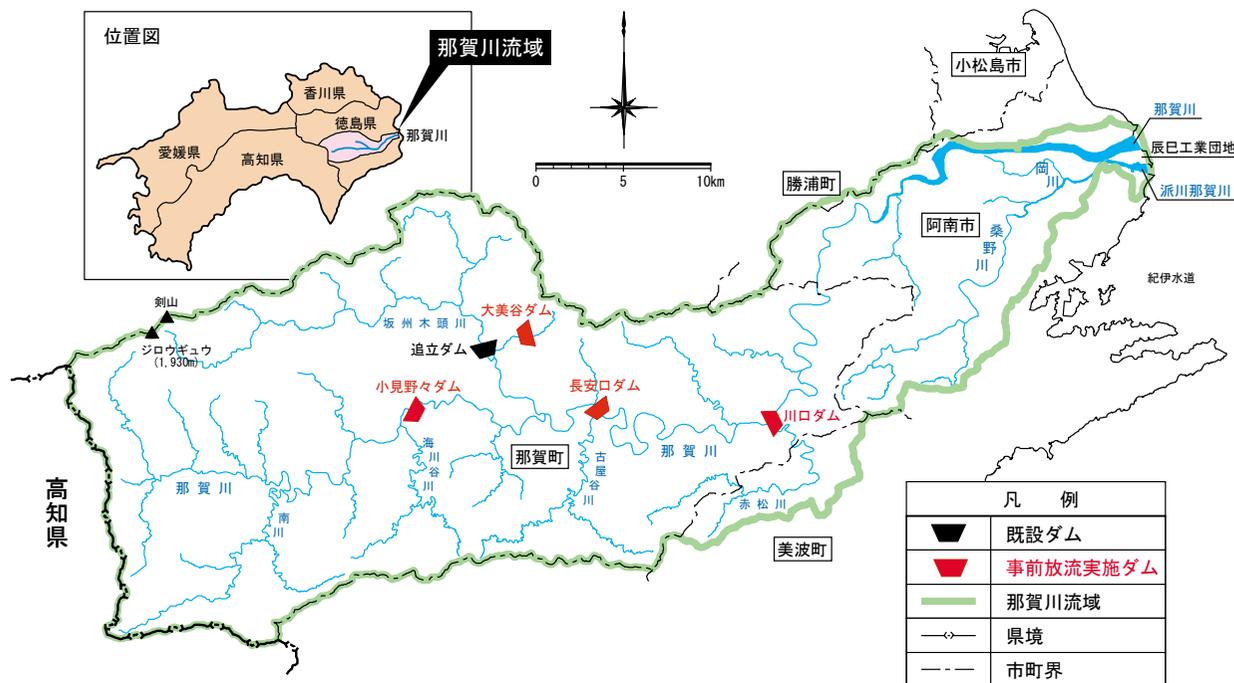


この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分1、5万分1地形図を複製したものである(承認番号 平29情複、第1548号)

# (4) 台風第10号での取組及び事業の効果

①: 長安口ダム、小見野々ダム、大美谷ダム、川口ダムの4ダムにおいて事前放流を実施し、合計で約2,463万m<sup>3</sup>の洪水調節可能容量を確保した。

なお、9月3日17時現在で、事前放流した水は回復済み。



長安口ダム放流状況



長安口ダム放流開始前



長安口ダム事前放流完了



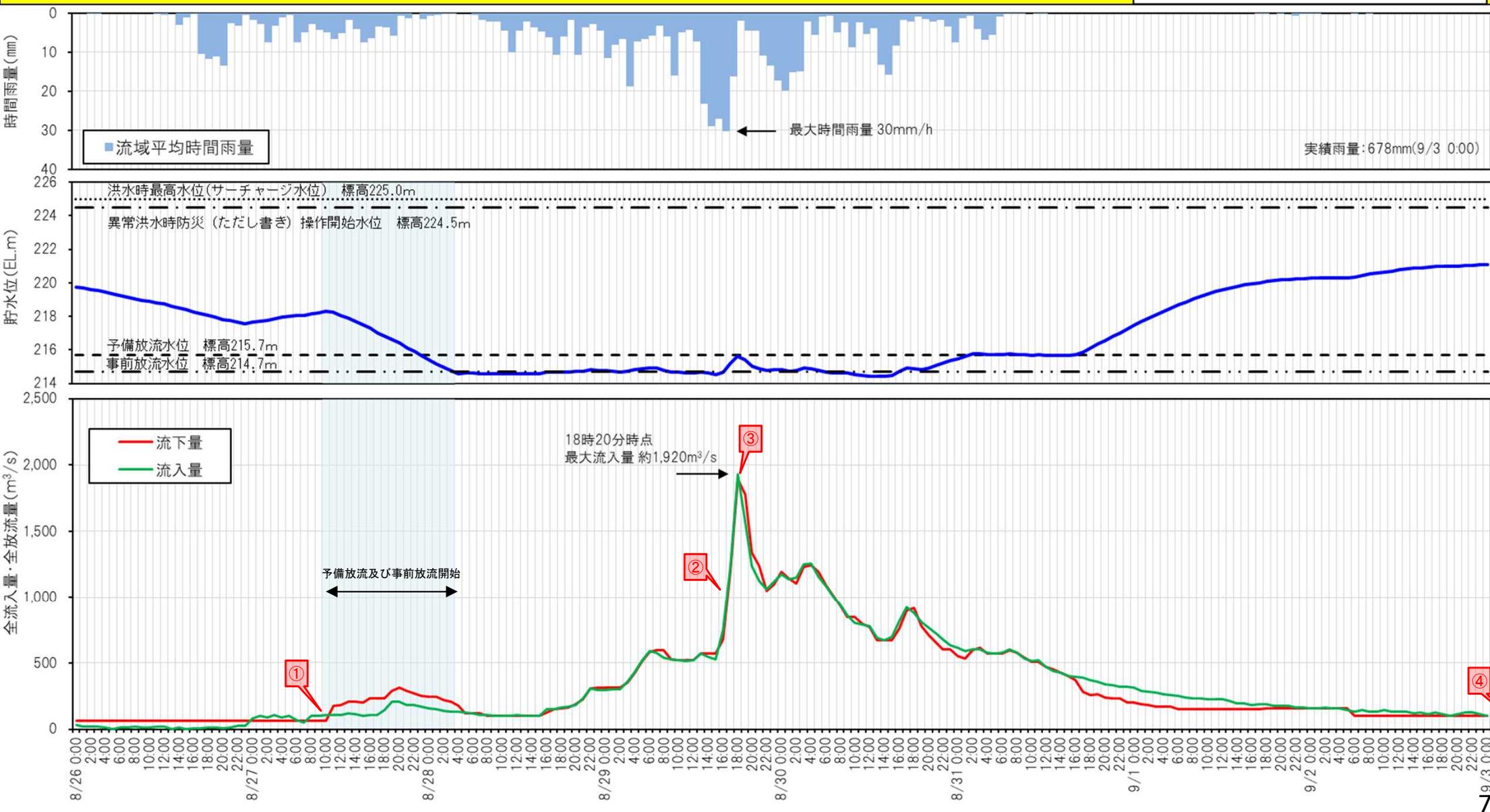
| ダム名  | 管理者     | 洪水調節容量               | 洪水調節可能容量           | 合計                    |
|------|---------|----------------------|--------------------|-----------------------|
| 長安口  | 四国地方整備局 | 1,680万m <sup>3</sup> | 162万m <sup>3</sup> | 1,842万m <sup>3</sup>  |
| 小見野々 | 四国電力(株) | 0万m <sup>3</sup>     | 524万m <sup>3</sup> | 524万m <sup>3</sup>    |
| 大美谷  | 四国電力(株) | 0万m <sup>3</sup>     | 24万m <sup>3</sup>  | 24万m <sup>3</sup>     |
| 川口   | 徳島県企業局  | 0万m <sup>3</sup>     | 73万m <sup>3</sup>  | 73万m <sup>3</sup>     |
| 合計   |         | 1,680万m <sup>3</sup> | 783万m <sup>3</sup> | ※2,463万m <sup>3</sup> |

※今回確保した容量

# (5) 台風第10号での長安ロダムの流況

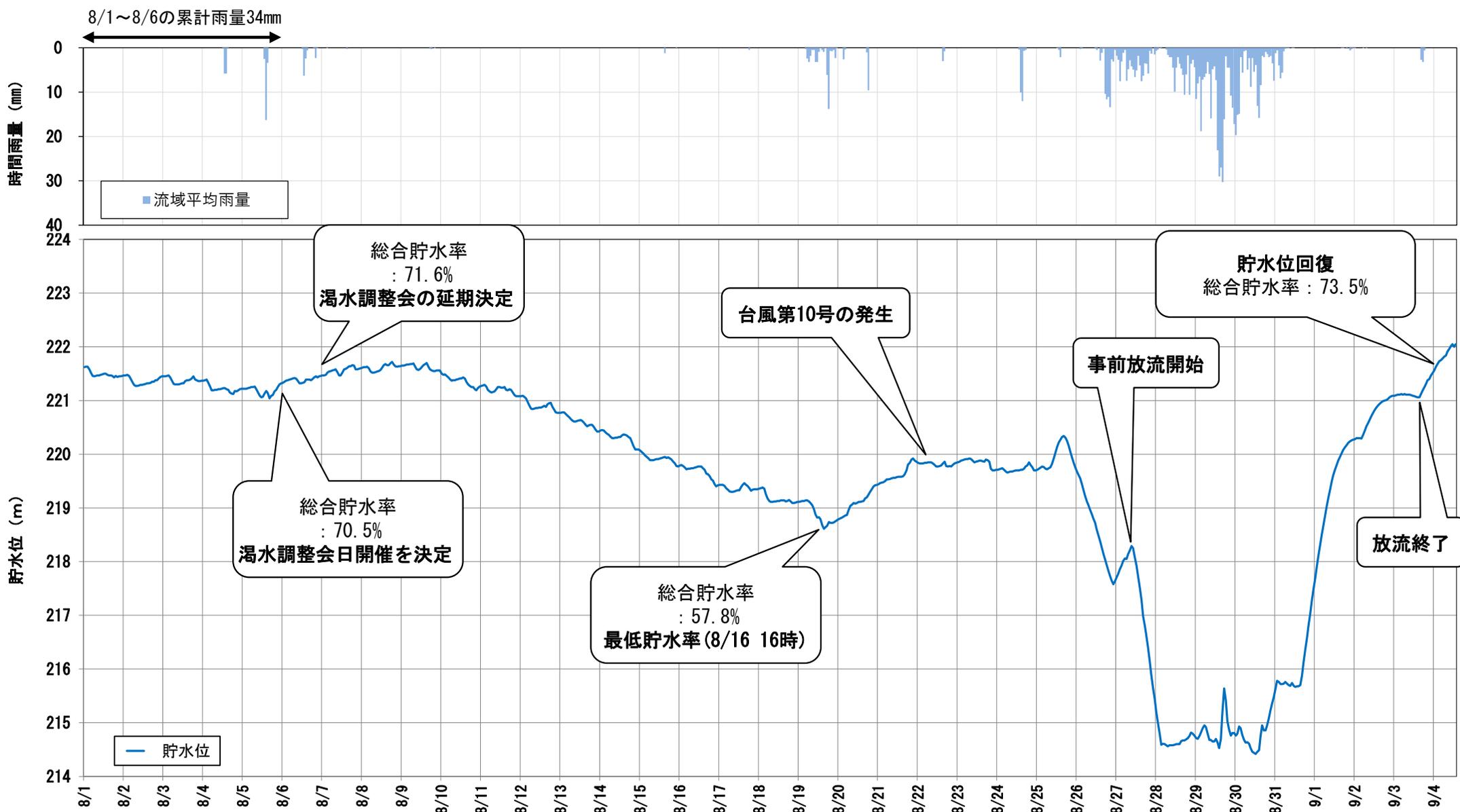
- ① : 8月27日 10:00 予備放流及び事前放流開始
- ② : 8月29日 16:20 流入量1,000m<sup>3</sup>/s超過
- ③ : 8月29日 18:20 流入量ピーク到達 1,920m<sup>3</sup>/s
- ④ : 9月 3日 16:00 放流終了

令和6年8月 台風10号 速報値



# (6) 台風第10号による貯水位回復

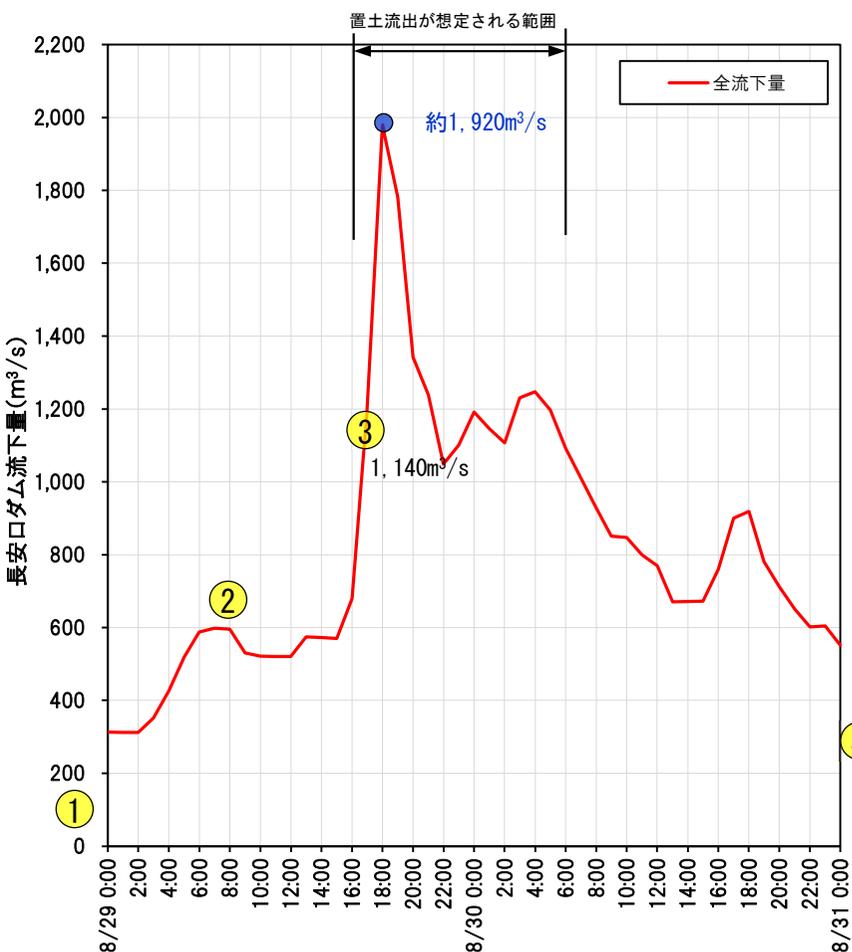
那賀川水系長安ロダムの上流では、7月の降水量は約246ミリメートルと平年の約49パーセント、8月に入ってから降水量は約34ミリメートルと少雨の状況が続いていたが、台風第10号に備えるための事前放流を実施した後に、貯水位を回復することができた。



# (7) 台風第10号に伴う置土流出について

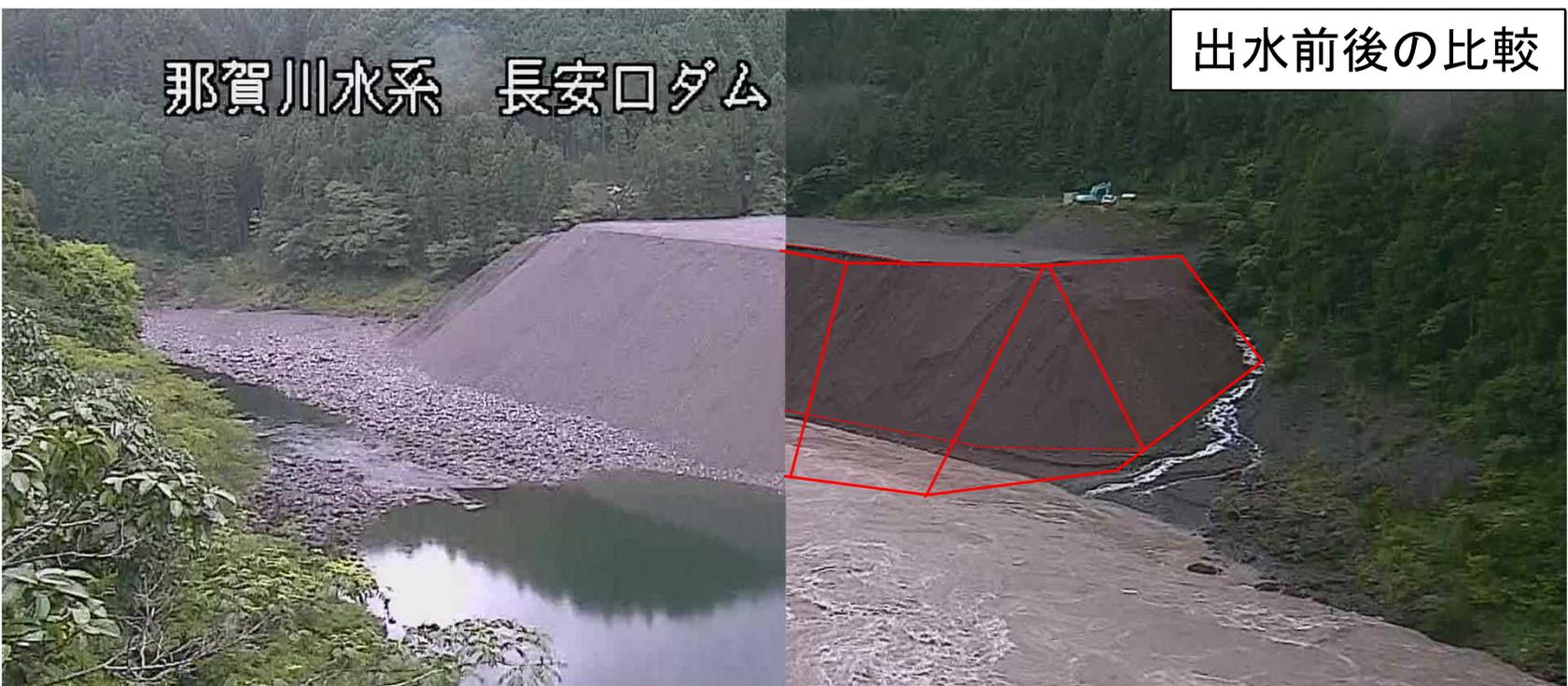
- ① : 8月23日 置土流出前
  - ② : 8月29日 8:00時点、流下量 530m<sup>3</sup>/s (置土に大きな変状なし)
  - ③ : 8月29日 17:00時点、流下量 1,140m<sup>3</sup>/s (置土全域の法裾が流出)
  - ④ : 9月2日 置土流出後 (置土法面が大きく流出)
- ダム最大流下量は約1,920m<sup>3</sup>/s (8/29 18:20時点) で、合計で約1.9万m<sup>3</sup>の土砂流出があったと推定される。

令和6年8月 台風第10号ハイドログラフ(ダム流下量)



# (7) 台風第10号に伴う置土流出について

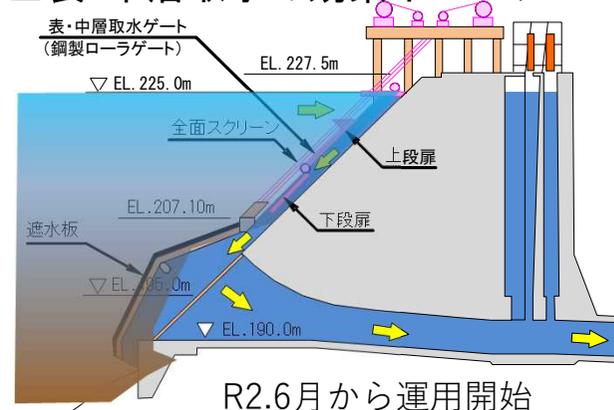
・ゲート放流によりダム直下の置土が8月29日16時～8月30日6時（620m<sup>3</sup>/s～1,920m<sup>3</sup>/s～1,100m<sup>3</sup>/s）の間に流出したと考えられ、その合計は約1.9万m<sup>3</sup>であったと推定される。



# (8) 選択取水設備の効果

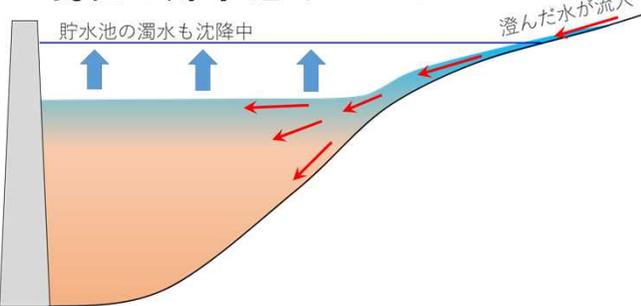
- ①: 選択取水設備は貯水池内の表層・中層・低層から、比較的濁度の低い層の水を選択取水することにより、下流河川の濁水長期化を軽減させるもの。
- ②: 現在 (R6. 9. 4時点)、ゲートからの放流が終了。出水直後は、日野谷発電所放流水も濁っていたが貯水池内の細粒分の沈降が進み表層取水に切り換えたことにより下流河川への影響が軽減されている。

## ■ 表・中層取水の効果イメージ



貯水池内の細粒分が沈降する間も清水放流が可能となる。

## ■ 現在の貯水池イメージ



1,500m<sup>3</sup>/sを超える出水により貯水池内は一様に濁りが発生したが、表層から澄み始めている。

